

定員※  
**150**名

# AIに任せること、 私たちがやること

## 生成AIと考える病院DX

2026年5月30日(土)  
12:25~13:15

会場：J会場  
ポートメッセなごや  
交流センター 3F 第3会議室



※本学術総会のランチョンセミナーは事前予約制となります。詳細は総会HPをご覧ください。  
※事前申込受付期間：2026年4月10日(金)正午~4月30日(木)正午  
※各セミナー席数を限定してのご案内ですので、予定数に達し次第締め切ります。  
※当日整理券の配布はありません。



座長  
**白木 康浩**

信州大学医学部附属病院  
医療情報部 医療情報戦略室室長



演者  
**高野 与志哉**

地方独立行政法人  
長野市民病院  
情報システム室 システムマネージャー  
博士(診療情報管理学)

# AIに任せること、 私たちがやること

## 生成AIと考える病院DX

地方独立行政法人 長野市民病院  
情報システム室 システムマネージャー  
博士（診療情報管理学）

高野 与志哉

医療者が減り、患者が減らない社会がすぐそこまで来ています。少子高齢化が進む日本では、これからの医療は「人を増やして乗り切る」という発想だけでは立ちゆかなくなります。だからこそ必要なのが、“AIに任せること”と“人にしかできないこと”をきちんと切り分けることです。人が減る社会でも医療の質を落とさないために、テクノロジーを前提にした新しい働き方を考える時代に入っています。

長野市民病院では、電子カルテとつながる「自家製生成AI」を院内で開発し、退院サマリの作成やカンファレンス記録の整理など、医療者が時間を取られがちな周辺業務を肩代わりさせています。その結果、医師や看護師が本来やるべき「診る」「見る」「観る」に集中できる環境づくりを進めています。さらに、多職種が参加する「デジタルアンバサダー」制度を立ち上げ、現場のアイデアからAI活用を広げているのも特徴です。技術だけでなく、人と文化も動かすことでDXを進めている点が、私たちの取り組みです。

私たちが目指しているのは単なる効率化ではありません。AIやロボットが得意な仕事は大胆に任せ、その分、人にしかできない仕事に時間を使う。そうすることで、医療者が患者と向き合う時間と意識を取り戻すことができます。病院DXは人件費削減のための取り組みではなく、職員がやりがいを持って働き続けるための「人材戦略」でもあります。

本講演では、病院DXを「誰のため」「何のため」に進めるのかを、少しカジュアルに、そして現場のリアルとともにお伝えします。生成AIをどう現場に活かすのか。医療の質と働きがいをどう両立させるのか。医療の未来を考えるヒントを、ぜひランチタイムと一緒に考えていただければ幸いです。

